

## アイデアと実績で「地域のしごと」を幅広く実施 (大森スポーツクラブさくら 秋田県横手市)

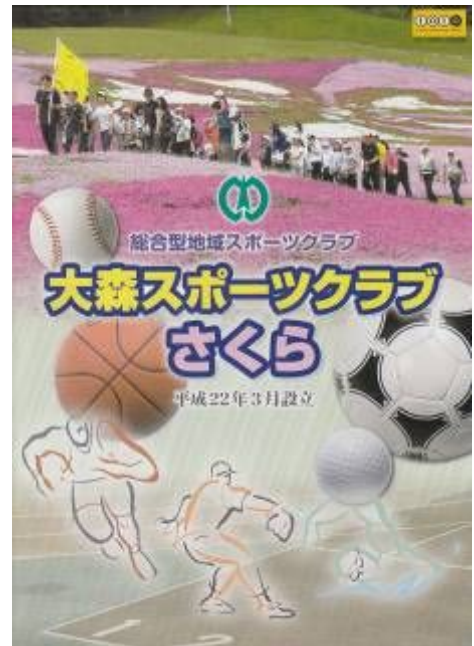
### 1. 平成 24 年度の toto 助成金が不採択に

大森スポーツクラブさくら（以下、クラブ）は、toto 創設支援を経て平成 22 年3月に、スポーツ推進委員（当時、体育指導委員）が中心になって設立されたクラブです。平成23年度は toto 自立支援の助成金 182 万円を受け、平成 24 年度は 466 万円（うちクラブマネジャー設置支援 305 万円）で継続を申請したものの、日本スポーツ振興センターにおける審査の結果、不採択になりました。

しかし、クラブを創設する時から、助成金などの支援は最終的にはなくなることを念頭においていたので、クラブ会長の渡部さんは「予行練習」だと思い、「なければならないなりに努力しよう」と前向きに発想を転換しました。

予期せぬ事態への対応として、まず、予算の組み直しを行いました。役員や指導者の謝金は一切なくし全員ボランティアとしましたが、もともと地域で協力してやっていこうという「心意気」があったので全員納得してくれました。

平成 24 年度の予算は、会費 30 万円、施設管理等業務委託 260 万円、イベント事業委託 80 万円、除雪業務を 30 万円ほど見込み、年間 400 万円で予算を組んでいます。会費収入の割合は 1 割弱と少ないものの、事業収入も自己財源に入れると、自己財源率は 100%です。



クラブのパフレット

### 2. toto 不採択後、かえって事業収入が増えた

toto 不採択は思わぬ事態でしたが、その後、積極的に仕事を受けるようにしたため、かえって事業収入は増えています。

渡部会長は「地域の“何でも屋”になればいい。ボランティアであっても『損して得とれ』と、何でもやっています」と語ります。

現在、横手市のスポーツ施設の管理業務を委託されていますが、toto 不採択後、管理施設の拡大や管理時間を長くしてもらうことができました。また、秋田さきがけ新聞の読者向け「グラウンドゴルフ大会」など、各種スポーツイベントの企画・事務局業務を以前よりクラブで請け負ってきましたが、toto 不採択後、収益が上がるように努力しています。

平成 24 年度から始めたのは、競技団体のスポーツ大会（例、ゲートボール大会など）で、事務面のサポートを始めました。最近は、200 人近く会員がいるグラウンドゴルフ協会が加わってくれました。その他、地域のスポーツ振興のお手伝いを運営委員の協力のもと、様々手掛けるようになっていきます。



### 3. スポーツ以外の「地域のしごと」はたくさんある

実はスポーツだけでなく、地域に必要とされている「地域のしごと」はたくさんあると言えます。例えば、秋田県のような雪深い地域では、「除雪業務」が毎年冬に発生します。クラブでは除雪事業を行政から請け負っています。

除雪事業などの請負先になるには、まず自治体への「業者登録」が必要です。登録しておかないと10万円以上の仕事はできませんし、登録しておく行政から入札参加の声がかかることがあります。登録に必要な書類は、業務実績や備品の所有状況、税金の滞納がないなど諸条件がクリアしていることを証明するもので、入札の際の「資格」となります。入札時は価格競争もありますが、実績を見られることも少なくありません。

クラブが「地域のしごと」をするための「資格」や条件は、スポーツ指導やマネジメントに限られません。農業のノウハウ、大型免許、大型特殊（ショベルカーなど）免許、建設機械免許、調理師免許など、もっているとできる「地域のしごと」は多数あります。「クラブには調理師免許をもっている運営委員がいます。食品を扱うイベントの責任者になれるし、クラブでお菓子類も販売できるかも」と渡部会長は顔をほころばせます。

### 4. 地元に帰ってきた若者の新たな雇用の場

クラブマネジャーの讃岐香奈さんは地元出身ですが県外にでていて、地元に戻る時がちょうどクラブ設立の時でした。スポーツ推進委員でクラブの運営委員でもある母親の勧めもあり、専従のマネジャーになりました。

マネジャー業務以外にも、いろいろなスポーツに挑戦し地域の人々に教えられるようにしています。特に「綱引き」はマネジャーになってから始めました。面白いので、もっと活動人口を増やしていきたいと思っています。



向かって左が讃岐さん、右が渡部会長

讃岐マネジャー自身も、除雪作業などスポーツ以外の「地域のしごと」を担っています。「地域をまわって雪下ろしをして喜んでもらうと、『地域のためになっている』とすごく思えて、うれしい」と。クラブマネジャーになって1年半がたちましたが、「クラブでは人とのつながり、やりとりが重要。知り合った人からアイデアや財源面で助言をもらえているので、いろいろな人と出会えてよかった」と讃岐さんは語ります。

渡部会長は「クラブをもっと大きくして、地元に帰ってくる人の職場にしたい」と考えています。

### 5. 行政との連携で支出を減らす工夫



クラブのサッカー教室では、サッカーゴールがなかったため、近隣中学校の利用していない古いゴールを使っていました。市のスポーツ振興課に「壊れそうなゴールなので、他の学校で余っているものを探してもらえないか」と依頼しましたが、結局見つけることができず、行政で買ってくれる方向になりました。行政には、話の持っていく方の工夫も大切です。



クラブの広報紙は2カ月に1度発行しており、大森地区生涯学習センター便りの裏側を使っています。プログラムやイベントのチラシなど配布物も、町の行事のプリントと一緒にすると行政で全戸配布してくれます。

生涯学習センターは市内に8地区ありますが、平成27年度までの合併債がなくなると統合される予定です。クラブでは、今まで生涯学習センターが実施していたイベントをクラブでできるようにしようと考えています。しばらく中断していた「スポレク祭」を、町の活性化を目的に、クラブが主管となって、平成23年度復活させた実績があります。クラブのPRのいい機会にもなり、「スポレク祭」の後、バレーボールとバスケットボールのスポーツ少年団がクラブの団体会員として入ってきました。

## 6. 今後の展望と課題

渡部会長は、「ある企業の社長が『失敗は次へのアイデア』と言っていました。チャレンジすることが大事。ダメでもともとです」と言います。熱意があり人を引き付けて離さず顔が広い渡部会長は、アイデア豊富で、「こんなことやったら面白そう」と毎日のように讃岐マネジャーに話すそうです。

今後、クラブの広報紙に企業の広告を載せようと考えています。広告を掲載した会社のスポーツイベントのお手伝いをする事も視野に入れています。

現状では toto 助成金も必要ですので、再び申請する予定です。また、トップアスリートを呼び専門的な部分を教えてもらい、「あんな人になりたい」と地元で希望を与えたいと考えています。高齢者の多い地域なので、老人施設と一緒に、温泉と健康体操などのプログラムを実施することも構想中です。

会員は、60歳以上が4割、その他は小学生で、働き盛りの人がちょうど抜けています。「年間を通して、幅広い年代に参加してもらえるように、30・40代の方に参加してもらいたい。疲れた時は、休みたいと思いますが、スポーツで発散してほしい」と讃岐マネジャーは語ります。

「スポーツと健康の重要性を理解してもらえれば、会員が増えます。自殺者が多い地域でもあるので、自殺予防になる手助けもしたい」と渡部会長は締めくくりました。



左から東北ブロック地方企画班員の村上さん、讃岐さん、渡部会長、クラブ育成アドバイザーの田中さん

(取材日：平成24年6月28日)

## 【大森スポーツクラブさくら プロフィール】

1. 設 立    年月日：平成22年3月27日  
経緯：横手市は旧8市町が合併したが、学校の体育施設を残し地域で利用を進めるために、クラブをつくり施設の管理をするようになった。
2. 地 域    地区人口：約7,000人（大森地区、平成24年6月現在。横手市は約99,000人・平成24年4月現在）  
特性：農村部で高齢化が進む地域。人とのつながりが濃く助け合いがある地域
3. 運 営    会員数：約200人（団体会員含む、平成24年6月現在）  
団体会員は10名以上の団体。スポーツ少年団、体育協会、企業など  
予算：約400万円（平成24年度）
4. 特 徴    会員は60歳以上が4割を占めている。
5. 連絡先    〒013-0514 秋田県横手市大森町字大中島268（大森生涯学習センター内）  
TEL：0182-26-4073 FAX:0182-26-3200